



らのやん

#15

はじめての対談編

著:藍澤たすく

イラスト:かもめ遊羽

「らのけん」ことじゅんなお話?

三郷学園高校「ライトノベル研究部」
——通称「らのけん」。

それは世にあふれるラノベを読みまく
り、また自らも書きまくり、総合的にラ
ノベへの造詣を深めることを目的とした
志しの高い部活動……のはず、なんだ
けれど……。アレ? 実際フタを開けて
みたらなんか思ったよりゆるくない?

だがしかし! それこそが「らのけん」
の魅力! という感じで展開するまつた
り系日常部活「コメティイ」なのです!



緑川萌

ラノベと動物をこよなく愛する素直でまっすぐな女
の子。その直情径行さゆえに突っ走ってしまうことがある
のはご愛嬌。



白井華子

らのけん顧問教師……のはずが、見た目が一番幼いの
ため、部員からも「華ちゃん」と呼ばれ親しまれる癒し
系な存在。覆面ラノベ作家一条れんとしても活躍中!



赤城操

クールレビューイーな眼鏡っ子。微に入り細を穿つ綿密な設定作りには、らのけん内でも定評がある。校正能力もプロ並み。



黒田美玖

愛情表現がセクハラチックなボーイッシュ女子。いつもそのターゲットにされる華子の苦労は、推して知るべし。何気にミステリラノベ好き。



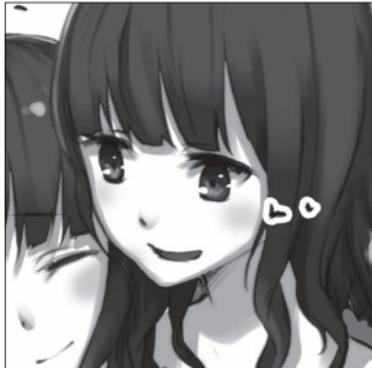
紺野司

ラノベ作家としての華子、つまり一条れんを担当する編集者。AG文庫編集部に所属。天然な華子の創作活動を、陰に日向に支えてくれる心強い存在。



青山一斗

らのけんの黒一点。なんにでもすぐに首を突っ込みたがる好奇心旺盛な性格の持ち主。



白井咲耶

華子の弟であり、かつ男の娘。見た目は華子そっくりでまるで双子のよう。
※ただしサイズは全然違う模様。



蔵内豪三郎

本名は蔵内・マリアンヌ・葉子。華子のデビュー作まんみーのイラストを担当するイラストレーター。華子にやや危険な方向の好意を抱いている御様子……？



「うん、やっぱり緊張しますう……」

「ははは、大丈夫ですよ、白井さん。そんなに緊張するような企画じゃないですから。はい、リラックス、リラックス～♪」

「でもお～……」

弱気になる華子を、担当編集の司がいつもの爽やかな笑顔で元気づける。

華子にとつてはすでに通い慣れたAG文庫編集部だが、今日はいつもの打ち合わせとは訳が違う。

そう、今日はなんと華子と同じくAG文庫大賞からデビューした新人作家さんとの初めての対談の日なのである！ ちなみに対談の様子は来月のAG文庫マガジンに掲載の予定だ。

「あの……桐咲なずな先生つてどんな方なんですか……？」

華子がおずおずと今日の対談相手の事を司に訊ねる。

「そうですね、白井さんもご存じの通り、桐咲先生は去年のAG文庫大賞を受賞されて、現在は『神威 THE BLACK』シリーズを執筆されてらっしゃいます。そして桐咲先生は、なんとなんと現役女子高生作家さんなんですよ！」

「ええ!? そうなんですか!? 『神威 THE BLACK』ってすごい俺THEEEEEEE中二バトルだから、てつきり男の人が書いてると思ってました！ しかも現役女子高生つて……あたしよりもむちゃくちや若いじゃないですか～……めちゃくちや才能あるじやないですか～……」

か……あたしなんだか余計に緊張してきちゃいましたあ……はあ……」「まあまあまあ白井さん、そうへこままずに……。今日は新人作家同士、ざつくばらんに作品の話やAG文庫大賞の話なんかをしていただければ大丈夫ですから。気軽にいきましょう！あ、ちょうど、あそこの打ち合わせスペースでうちの神崎かんざきと桐咲先生が打ち合わせしてますよ」司がにこやかに編集部の向こうにある打ち合わせをする清楚なワンピースを着たボニー・テールの女の子がいた。

おそらくあれが桐咲先生ということなのだろう。

「！」

が、華子は一目桐咲の姿を目にしたるや、その場に立ち尽くし、だらだらと大量の汗をかき始めた。まるで溶け始めのアイスバーである。

「？ 白井さん、どうしました？」

「き、緊急事態です！ 緊急事態です、紺野さんー！」

心配そうに覗き込む司の両手を、華子はぎゅっと握りしめると急いで廊下の方に彼女を引っ張り始めた。

「ちょ、ちょっと、白井さん！」

司は訳が判らないまま、編集部をあとにさせられるのだった……。

◆

「えーっ！ 桐咲先生つて白井さんの学校の生徒さんなんですかーー！」
「はい、間違いありません……彼女の名前は白王院千鶴さん……三郷学園高校生徒会長を務める才女で、学園の人間なら彼女を知らない者はいないくらいの有名人なんです……」

「へー、桐咲先生がねえー！」

司は感心した様子でふむふむと頷いた。

「感心してる場合じゃないですよ、紺野さん！ あたしが彼女と対談するつてことは、学校にあたしがラノベ書いてるのがバレちゃうってことじゃないですかーー！」

「あ、そうか、白井さんの学校は副業禁止なんでしたつけね。これは困りましたね、どうしましよう……」

「あの……大変恐縮なんですが、なんとか今日の対談、キャンセルさせていただけないでしょうか……？」

華子が申し訳なさそうに、上目遣いで司を見つめる。

「うーん、桐咲先生もお忙しいお方で、やつと今日だけスケジュールをいただけたんですよ。それに対談相手にも白井さんをわざわざ指定されたそうですし……それを当日キャンセルする

となると、それなりにしつかりした理由がないと……」

司は困った様子で頬に手を当てる。

「でもでもでも、学校にバレるわけにはいかないんですよ～」

対する華子はもうすっかり涙目で司にすがりついてくる始末である。

「うーん、しようがない。じゃあ、やっぱりお断りしますか……神崎に何て言おうかなあ、言いづらいなあ…………あつ！」

そこまで言って司はぽんと手を叩いた。

「白井さん、いい手があります！ これなら対談をしても、桐咲先生には白井さんのことは絶対にバレません！」

「え？ そんなすごい方法があるんですか？」

「はい、私に任せてください！」

司はどうでも良い表情でサムズアップしたのだった。

◆ 「失礼いたします、桐咲なずなで……」

対談用に用意された応接室に入ってきた桐咲はそこまで言つて動きを止めた。

なぜなら対談相手の一条れん先生が座っているはずの向かいのソファに、ゆるキャラの着ぐるみが鎮座していたからだ。

白い円柱状の胴体にファンシーでカラフルなヒラヒラがたくさん巻き付いている。あちこちに配されたスパンコールが目に眩しい。首に提げているのは魔法少女が身につけるような大きな宝石のネックレスだ。申し訳程度に胴体から伸びた4つの突起物はおそらく手足なのだろう。そんな中、黒いボタンが縫いつけられただけの、つぶらな瞳がちぐはぐな存在感を誇示していた。

はつきり言つてコンセプトのよく判らない着ぐるみだった。

「は、初めましてなつしー！ 一条れんだなつしー！」

着ぐるみがどこぞのゆるキャラまるパクリの挨拶をしてくる。

約5秒間の沈黙。

「すみません。どうやらわたくし、部屋を間違えたようです」

「あつ、あつ、ちょっと待ってください、桐咲先生ーー！」

ドアを閉めて退出しようとした桐咲を、着ぐるみの横にいた司が慌てて引き留める。

「驚かせてしまつてすみません！ でもこれは正真正銘の一条先生なんです。実は一条先生

は極度の対人恐怖症でして、こうしないと初対面の人と喋ることができないんです！」

「申し訳ないなつしー！ 申し訳ないなつしー！」

「あの、一条先生も桐咲先生が混乱されますから、余計なキャラづけはしないで下さい」「あ、すみません……なつしー無つしー……」

約5秒間の沈黙。

「そう、なんですか……」

まだ納得がいっていないのか、ちょっとと訝しげな表情を浮かべながら、桐咲は一条れん、すなわち華子（in着ぐるみ）の対面のソファに座った。

ちなみにこの着ぐるみ、AG文庫黎明期に人気のあった某作品のマスコットキャラであるらしい。編集部の奥にしまわれていた物を司がわざわざ引つ張り出してきたという訳だ。

「おや、神崎がいないようですが……」

司がきょろきょろと辺りを見回す。

「あ、神崎さんでしたら次の打ち合わせで外出されました。あとは紺野さんにお任せします、とのことです」

「ああ、そういうえばそろそろ神崎から聞いておりました、失礼いたしました。では本日はよろしくお願ひいたします」

淡々と報告する桐咲に、司は深々と頭を下げる。
続いて着ぐるみの華子も一緒に頭を下げる。

が。

「あわわわっ!?」

頭の方に重心があるせいか、そのまま華子はごろんごろんとソファから転げ落ちてしまう。
しかも。

「こ、紺野さん！ 緊急事態です！ 緊急事態です！ 起きられませーん！ まつたく起き上がりませーん!!」

着ぐるみの中の華子は仰向^{あおむ}けになつて手足をじたばたさせるが一向に起き上がれない。
どうやらこの着ぐるみは一度倒れると二度と起きあがれない、「七転^{ななころ}び零^{ぜろ}起き」の恐ろしい着ぐるみのようだ。

「はい、一条先生、私にしつかりつかまってください……じゃ、行きますよ、よっこら……
しょつとー！」

「ふにゃー……」

司の力を借りてようやくソファに座り直した華子だったが、この時点での体力の8割は消耗^{しゃもう}していた。この先の対談が超不安である。

「……可愛い……」

その時、桐咲が囁^{ささや}くように、そう声を洩^もらした。

「え？ 何かおつしやいましたか、桐咲先生？」

「いえ、なんでもありません」

桐咲はこほんと小さく咳払いをして姿勢を正す。

「一条先生の『まんみー』シリーズ、いつも楽しみに拝読させて頂いております。一条先生の描かれるキャラクターはどの子も生き生きしていて、大変魅力的で、わたくしとてもうらやましく思っています」

「いえいえ、そんなことないですよー！」桐咲先生の『神威』シリーズの方がめちゃめちゃかっこよくて最高です！特に最新刊で神威がジエンガルズ・レイヤーを斬り捨てるところとか、すごい慈悲というかクールというか……あたし読みながら鳥肌たちやいました！」

「ありがとうございます」

桐咲は華子に深々と頭を下げる。

つられて華子も頭を下げそうになつたが、先ほどの二の舞になるのを恐れてなんとか踏みとどまつた。

華子は着ぐるみの両手をわきわきと動かしながら喋り続ける。

「あたし、女の子キャラを描くのは好きなんですが、男の子って結構苦手で……だから神威みたいに魅力的な男の子ってどうやって描けばいいのかな……ついでに、いつつも思いながら読ませていただいります〜」

「ありがとうございます」

再び桐咲が深々と頭を下げる。

華子はまたつられそろいになるのをぐつと我慢する。
「でも桐咲先生って学校じゃ凄い理知的でクールな感じだから、こういう激しいバトルな作風とか、全然結びつかなくつて最初はびっくりしました。あたしてつきり男の人が書いてるかなと思つてて……」

「……学校？」

桐咲が訝しげな表情で華子の台詞を遮った。

華子が不用意に発した「学校」というキーワードが桐咲のセンサーにひつかつたようだ。その瞳にはありありと疑惑と疑念の色が浮かんでいる。

「あ、その、あたし紺野さんから桐咲先生が現役女子高生作家だつて聞いてまして！それですごいなつて思つてて！あの、その、この」

華子があわててしどろもどろに弁明する。

「ではどうして、学校でのわたくしの様子まで知つてらっしゃるんでしょう……？」
「はうつ!?」

思わず追撃に華子は動きを止めた。

そしてどういう原理だか、着ぐるみの上からだらだらと大量の汗をかき始めた。

「すみません、桐咲先生！実は私が神崎から桐咲先生の学校での様子を小耳に挟んでまして……それで世間話ついでに一条先生にお話ししていく……」

司が慌てて華子の横からフォローを入れる。

華子もそれに乗つかつて、両手をバタバタさせながら弁明を続ける。

「そ、そ、うなんす！ 実はあたし、紺野さんから白王院さんのことを聞いてまして……」
スツ。

桐咲が無言でソファから立ち上がった。

華子はその瞬間、桐咲の本名を口走ってしまった自分に気がつき、完全にフリーズしてしまった。

そのまま桐咲なずな……すなわち白王院千鶴は無言で華子の方に近づいてくる。

（お、終わりだわー！ バレちゃう！ 白王院さんにあたしのことバレちゃう！ そして学校もクビになっちゃうー!!）

華子がぎゅっと目をつぶつてそう覚悟した瞬間。

「もう、我慢できません……！」

「ふあつ!?」

華子が着ぐるみごと千鶴に抱きしめられた。

「こ、こんな可愛い着ぐるみで、そ、そんな可愛い動きをされたたら……わ、わたくし、もう我慢できません～～!!」

「ふえええええつ!?」

着ぐるみの華子を抱きしめ、スリスリと頬ずりする千鶴。

その頬は紅潮し、瞳はうつとりと潤んでいる。

どうやら千鶴はこういつた可愛いモノに目がないようだ。

（な、なんか、白王院さん、学校とキャラが全然違う～～!?）

（まあまあまあ、いいじゃないですか。どうやら白井さんのことはバレなかつたようです、

結果オーライですよ）

華子と司が着ぐるみ越しにそうアイコンタクトを交わす。君たちはエスパーですか。

「それに、ずるいです！」

千鶴が突然頬を膨らませながら、司に詰め寄つてくる。

「一条先生ばかり、こんな可愛い着ぐるみ着てずるいです！ わたくしもこういう可愛いの、

着たいです！」

「はああああ!?」

千鶴の申し出に華子と司は同時に目を丸くするのだった。

★2014年	
GA文庫マガジン7月24日配信号	「らのけん！」
GA文庫マガジン9月合併配信号	「らのけん！」
GA文庫マガジン10月27日配信号	「らのけん！」
GA文庫マガジン11月27日配信号	「らのけん！」
GA文庫マガジン12月25日配信号	「らのけん！」
12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	
GA文庫マガジン1月22日配信号	「らのけん！」
GA文庫マガジン2月26日配信号	「らのけん！」
GA文庫マガジン3月26日配信号	「らのけん！」
GA文庫マガジン4月24日配信号	「らのけん！」
GA文庫マガジン5月28日配信号	「らのけん！」
GA文庫マガジン6月25日配信号	「らのけん！」
GA文庫マガジン7月23日配信号	「らのけん！」

● 「らのけん！」 シリーズ掲載号一覧

そして翌月のAG文庫マガジンには、なぜか史上初の着ぐるみ同士の新人作家対談の記事が掲載されたのであった……。
そしてそれがなぜか好評で、この着ぐるみ対談はAG文庫マガジン名物として連綿れんめんと受け継がれていくことになるのであった……。まったく世の中判らないことだらけである……。

つづく

GA文庫マガジン8月21日配信号
…らのけん！
GA文庫マガジン9月18日配信号
…らのけん！

14 13

もつとも冴えた3つのお題編
華子、風邪をひく編